

先生の雑用、サポータースタッフが引き受けますよ

門真市では、学校サポータースタッフを小・中学校全校に配置している。教員の単純作業の業務をサポータースタッフが担うことで、教材研究や児童生徒への丁寧な指導等に教員の時間を割くことを目的としている。例えば、印刷等をスタッフに依頼することで授業の合間の時間を有効に使い、児童生徒に向き合う時間が増え、急な生徒指導等の対応もできるとい

うわけだ。

この制度は、平成28年度から、学識経験者、市民代表、校長、教頭、教員たちで「魅力ある教育づくり審議会」の会議を重ね、平成30年度から市

独自で導入を始めた。門真の子どもたちにより良い教育環境を整えるためであり、教員からの評判も上々だ。

矢口由梨枝さん（21）は、昨年5月から門真小学校でサポータースタッフとして勤務。教



斉藤校長(右)も「助かっています」と太鼓判

員に依頼された教材プリントや、保護者への通信文書、パソコンでのアンケート結果の入力、授業で使う教材をラミネート加工しカットするほか、

外部からの電話対応もこなしている。一日5時間、週5日の勤務で全職員の要望を把握している。在りでもあるようだ。

矢口さんは、「先生はずっと忙しそうにされているので、自分からこうしたいというのではなく、できるだけ役立ちたい」と話す。

控えめにサポーターに徹する矢口さんは、職員室の雰囲気明るくする存